

パナソニックの CSR調達の考え方

2012年5月24日

パナソニック株式会社
調達本部

パナソニックの経営理念

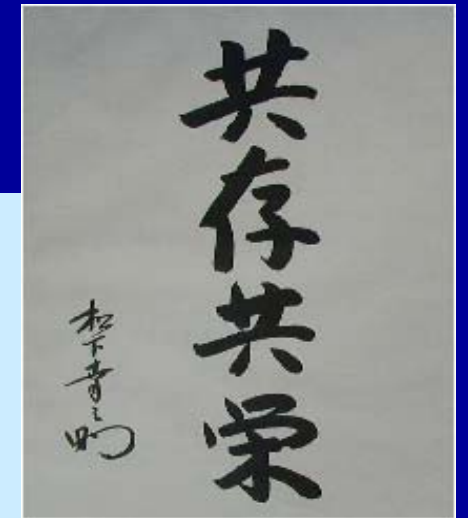
創業者の考えた「企業の社会的責任」(1970年代)

三原則を銘記し、時代に即応すること

1. 企業の本来の事業を通じて、社会生活の向上、人々の幸せに貢献していくこと
2. 事業活動から適正な利益を生み出し、それをいろいろな形で国家社会に還元すること
3. そうした企業の活動の過程が、社会と調和したものでなくてはならないこと

パナソニックの経営理念とCSR

- 「社会の公器」として
事業を通じて社会に貢献する
- 「スーパー正直」に透明性を高める



CSR（企業の社会的責任）
SRI（社会的責任投資）

パナソニックのCSR調達の考え方

パナソニックのCSR調達考え方

CSRの実践がなければ、社会から峻別される時代

調達のCSR活動

思いやりと誠実さを
基本とした
「スーパー正直」

環境革新の
あくなき追求

信頼と責任に基づく
パートナーシップ

CSR
実践
企業
になる

クリーン調達

- ・自らを律し、
正しい取引を実践

グリーン調達

- ・省資源、再資源化
(循環型モノづくり)
- ・禁止物質非含有

コンプライアンス

- ・法令・社会規範の順守

情報セキュリティ

- ・顧客・社会からの信頼
- ・設計参画の絶対条件

人権・労働、安全衛生

CSR
実践
企業
と
取引
する

グリーン調達

- 省資源、再資源化(循環型モノづくり)
- 禁止物質非含有

グリーン調達強化

新・グリーン調達基準書(2012年1月発信・4月施行)

現行必須取組み

環境マネジメント

ISO14001 認証取得

化学物質管理

- ① 禁止物質「不使用保証書」
- ② RoHS監査 Aランク取得
- ③ GP-Web化学物質情報更新

+

新たにお問い合わせする取組み

C02排出量削減

・弊社向けのC02排出量ご提示

資源循環

・再生資源の活用拡大や
投入資源削減のご提案

生物多様性

・植物由来等の新材料ご提案
・生物多様性保全の情報ご提供

購入先様と一体となってC0₂削減・資源循環・生物多様性の取組みを強化

グリーン調達の推進

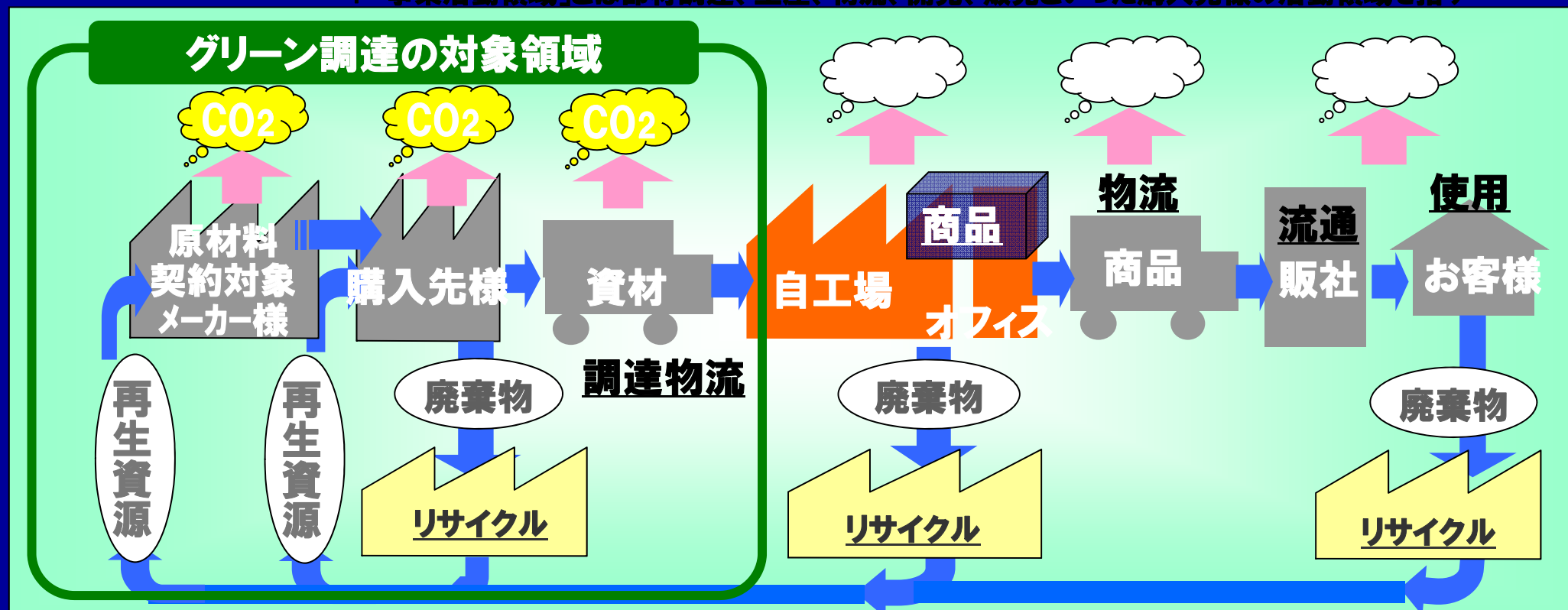
「環境革新企業への変革」に賛同し、部材を提供頂ける購入先様群を構築

購入先様の
環境負荷低減と
コスト合理化を両立

3つの基本要請

- 購入先様の事業活動領域*での環境負荷低減
- 一方的なお願いではなく、コラボによる成果の共有
- 購入先様によるサプライチェーン上流へのはたらきかけ

*「事業活動領域」とは部材調達、生産、物流、開発、販売といった購入先様の活動領域を指す



パナソニックのCSR調達の考え方

CS

クリーン調達

・自らを律し、

人権・労働、安全衛生

人権・労働、安全衛生

グローバル化とともに人権・労働マターがクローズアップ



米国金融規制改革法 コンゴ紛争鉱物条項

■法制化の背景

コンゴの豊富な希少金属を資金源とする反政府武装組織の資金源根絶
2010年7月、米国金融規制改革法案(コンゴ紛争鉱物条項を含む)が成立

■コンゴ紛争鉱物条項の内容等

- (1)内容...SEC(米国証券取引委員会)への年次報告義務および報告内容のWeb開示
- (2)対象...コンゴおよびその周辺国で採掘された紛争鉱物とその派生物を
製品に**使用※**する米国上場企業(当社も該当)
 - *該当鉱物:タンタル、錫、金、タングステン(3TG)および国務長官が
紛争鉱物として追加認定するもの
 - *周辺国:アンゴラ、ザンビア、タンザニア、ウガンダ、スーダン、ルワンダ
中央アフリカ共和国、コンゴ共和国、ブルンジ(9ヶ国)
- (3)SEC報告...該当鉱物の産出国・鉱山、入手経路の調査方法、
該当鉱物を使用した製品の説明 等
 - *第三者の民間監査機関の認証が必要
- (4)実施規則...当初より遅れ、2012年1月～6月の間に公表予定
 - *OECDガイドライン(実施規則の参考)は2010年10月公表済

※製品に含有しない工程材料(設備以外の副資材)を含む

対外ホームページで「紛争鉱物方針」発信

CSR調達 | CSR | パナソニック企業情報 | Panasonic - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://panasonic.co.jp/csr/procurement/index.html

パナソニック企業情報

CSR調達

紛争鉱物に対する基本的な考え方

<http://panasonic.co.jp/csr/procurement/index.html>

紛争鉱物に対する基本的な考え方

当社は、紛争地域諸国※1で人権侵害、環境破壊、汚職等、不正に関わる組織の資金源となっている紛争鉱物※2問題を重大な課題として懸念しています。

そして、調達活動における社会的責任を果たすため、このような不正とかかわる紛争鉱物を原材料として使用しない方針です。万一、使用が判明した場合は、ただちに不使用化に向けて取り組みます。

このために、昨年12月に全グループに対して、不使用の徹底を要請する通達を発信し、2011年2月には、主要な購入先様に鉱物調達先の確認を求める取り組みも開始しました。

ただし、紛争地域には、不正とかかわりなく、合法的に事業活動を行っている企業や人々もいます。不正とかかわりのある鉱物不使用の取り組みにより、そのような人々の事業活動や暮らしを阻害することのないよう、十分な注意を払いながら取り組んでいかなければなりません。

そのためにも、紛争地域諸国で公正な鉱物サプライチェーンに取り組む国々や企業、NPOを含め、さまざまなステークホルダーと連携して取り組む必要があります。このことから当社は、経済協力開発機構(OECD)が2011年7月より開始した「紛争鉱物デューデリジェンス ガイダンス」実施プロジェクトに参加しました。

本プロジェクトの参加により、OECDガイダンスに沿った取り組みを行い、グローバルスタンダードに即したマネジメントプロセスを構築することで、紛争鉱物問題の解決に向けた国際的な取り組みへの貢献をめざしてまいります。

※1 コンゴ民主共和国および周辺諸国

※2 錫・タンタル・タングステン・金

関連情報

▶ プレスリリース OECDパイロットプロジェクトに参加し、紛争鉱物不使用への取り組みを強化

パナソニックのCSR調達の原点

- ・パナソニックは創業以来、「共存共栄」の理念のもと、取引先様、購入先様との関係を構築してまいりました。
- ・その根底にあるのは、自主責任経営のもとでの自立した企業間の「相互責任」と「相互信頼」です。
- ・この考え方を共有した上で、お互いが繁栄するよう努力しあう関係が当社が目指すパートナーシップのあり方です。
- ・この「共存共栄」の考え方こそが、CSRの実践に他ならないと考えております。

<http://panasonic.co.jp/csr/procurement/>